

令和2年度（2020年度）第1回
北海道史編さん委員会産業・経済部会議事録

日 時：令和2年（2020年）8月26日（水）13:00～15:15

場 所：かでの2・7 5階 510号会議室

出席者：坂下部会長、青木委員、板垣委員、市川委員、

柿澤委員、小坂委員、小田委員、佐藤委員、韓委員、

満菌委員、宮澤委員

事務局：鶴原室長、杉本主幹、伊藤主査、和田主任

1 開 会

2 議 事

- (1) 各担当分の節構成と掲載資料について
- (2) 「建設業」の担当について
- (3) 今後の予定について
- (4) その他

3 閉 会

1 開会

【坂下部会長】

- ・今年度の第1回産業・経済部会を開催する。今回は会議資料の分量が多い中、皆さんから報告をお願いするが、時間の制約上簡単にならざるを得ない。今後は集まらずにズームのようなものでじっくり時間をかけて開催することも検討したい。
- ・議事1の「各担当分の節構成と掲載資料について」では、資料1の分担案に沿って報告してもらおう。部会のスケジュールは以前送付したところだが、期限も差し迫っており今日がその第1関門といえる。
- ・資料1の分担案でいえば、中項目が節に当たり、資料は各節の下に入ることになる。通史編とは違い、例えば農業の場合、農業を幾つかの節に分けて、資料の題名が各節の中で付番されていく形を取る。皆さんには節構成や掲載資料についてお話いただくとともに、資料点数に過不足について概ねの見通しを話してもらい、できれば調整も行いたい。
- ・会議資料のうち別添で厚く綴じられている資料は、掲載予定資料各10点程度をコピーしたもので、今日は確認まではできないが、資料の内容や出典についても多少触れていただきたい。
- ・議事2については、全体の大項目の中に建設業が入っておらず、追加すべきという意見もあったことから、その対応について話し合いたい。

2 議事

(1) 各担当分の節構成と掲載資料について

【坂下部会長】

- ・少ない時間で申し訳ないが、一人4分以内で報告いただきたい。地域開発について、小田委員お願いします。

<資料1-1/地域開発>

【小田委員】

- ・報告することだけが念頭にあり、資料のサンプルは付けていない。掲載する資料は2頁に示しており、(1)から(3)までの資料は全部手元にあるのでいつでも提供できるが、(4)の中で幾つか、コロナのため調査に行けず集めていないものが残っている。
- ・私のところで何をやるかということだが、これまでの議論の中で少し見えてきたので、それを整理した。開発政策・計画の中でも、極力行政の問題については触れないことにした。政治・行政部会の山崎部会長の担当部分との関わりでは、私はどちらかということと北海道開発計画、開発政策の具体的な数字などを中心に整理をしていくので、北海道庁や開発庁の開発行政にどのような問題があったかということや、設置の時の問題、道庁の戦略プロジェクトや、新長期計画が1998年につくられた際に起こった汚職問題など開発を巡っていろいろな問題があったわけだが、そのようなことは全て政治・行政部会にお任せして私は一切取り扱わないということで整理した。開発計画と地域開発の中身について、それがうまくいったのかいかなかったのかというようなことを中心にまとめて、その目的を概観しながら進捗状況や現実との差異を整理していきたい。
- ・まず、全国計画の中の北海道の部分が北海道開発庁の開発計画として体现されるのだが、それがどのようなことを狙ってまとめられているのか、全国総合計画の中の北海道部分を整理する。
- ・1977年には北海道独自で相当細かな発展計画をつくったが、その背景や中身について概観する。また90年代以降になると北海道独自の地域づくり開発が広がる。地域開発の内容が随分変わり、住民の意識の変化も大きくなっていくが、国の長期計画や北海道

の長期計画などを含めて整理する。

- ・全体的には、北海道に関わる開発のうち特に大きなプロジェクトについて、それがうまくいったのかいかなかったのか、どうしてうまくいかなかったのかということ、整理していきたい。
- ・節立ては大体このような感じで、国の計画、北海道開発庁の計画、道庁の計画を比較しながら整理をしていく。計画についての資料は全部揃っており、あとは現地に行って具体的な資料を集める作業が少し残っている。

【坂下部会長】

- ・分量は全部で15項目。総合計画の資料はかなりボリュームがあるので、そのうち少しだけを切り取るということになるのか。

【小田委員】

- ・何が狙いなのかが書かれた序文など、ポイントになる部分だけを切り取って整理する。

【坂下部会長】

- ・政策の部分を切り取ってしまうと面白くなるので、その政策に対する様々な反応などを入れるとよいと思う。その辺りは工夫してもらいたい。資料点数は15点ではなくその倍ぐらいになるのか。

【小田委員】

- ・全部で32点ほどになりそうだが、少し短めの計画などもある。問題は（4）のところ、どのような資料が出てくるかということ。何点かはもう手元にはある。
- ・他の分野と重複が出てくるのではないか。苫東計画やテクノポリスなどは工業関係と完全に重なってくるがそれらの扱いをどうするか検討の余地が残っている。

【坂下部会長】

- ・（4）にあるような面白そうな資料を（1）から（3）に散りばめるなど、計画書単体ではなく、現実の動きがわかるような資料を加え、2つで1点とした方が面白いのではないか。
- ・資料を並べたあとその解説文を書く作業がある。小田委員の担当分は、奥田委員の分と合わせて18頁で、単純に割ると6頁程度しかないが、この辺を調整していただければと思う。

<資料1-2 / 地域経済と雇用>

【坂下部会長】

- ・本日欠席の奥田委員が担当する「資料1-2 経済構造と雇用」について、提出された資料を見ていただきたい。
第1節が戦後混乱期、第2節が復興と経済発展、第3節が高度経済成長、第4節が構造転換とバブル、第5節がバブル崩壊と経済の低迷、という構成。経済構造の時期ごとに雇用の問題も含めて整理されるということだと思う。
- ・第1節の資料数が7点、第2節が2点と少ないが、第3節が11点、第4節が7点、第5節が4点という構成で、掲載する資料は、今のところ総合開発計画、経済実相報告書、新聞などを考えているようだ。

<資料1-3 / 農業>

【坂下部会長】

- ・私と東山委員が担当する第2章の農業は、4節立てで資料数は全部で45点、今のところ各節ごとに資料を10点ほど選んでいるので、あとで各節に少しずつ増やすことになる。節立ては概ね時期区分どおりで、第1節が1940年代の農地改革と戦後開拓、第2

節が 1950 年代から 60 年代の農業近代化の胎動、第 3 節が 70 年代から 80 年代半ばまでの経済成長の減速と北海道農業の地固め、第 4 節が 80 年代後半以降の経済構造調整以降の国際化農政期の北海道農業、とした。

- ・掲載資料はまだ確定していないが、既存の歴史をまとめた資料から採ったもの、雑誌から採ったもの、個人の回想録から採ったもの、そして国会の議事録からも 1 点採ってみた。これは結構面白く簡単に入手できるので、もし使いたい方がいれば紹介する。
- ・東山委員が担当する第 4 節では、日本農業新聞から、農家負債の克服で有名な「涙のランナー」の記事を拾っているほか、ごく最近の地域の新規就農の事例を載せている。
- ・まだまだやるべきことが残っているが、何とか進めていきたい。何か質問などがあればどうぞ。

続いて林業について、柿澤委員お願いします。

<資料 1-4 / 林業>

【柿澤委員】

- ・節の時期区分としては、①復興と荒廃からの脱却、②洞爺丸台風以降に生産を確立していく時期、③それを基にして林業が発展していく時期、④その中で消えていった木材の利用の仕方、⑤林業を取り巻く環境のより戻し、⑥再度林業を建て直そうという動きをまとめ、最後に、政策が大きく変わりつつあったので、それについてまとめるという形とした。
- ・この後通史を書くことになるが、資料編では通史編とは別の節立てにしてよいのか。

【坂下部会長】

- ・通史編はまだ検討着手していないが、最終的には同じになると思っている。

【柿澤委員】

- ・時代区分が多少変わっても、同じような項目でまとまっている方が解説を書きやすいと思い、このような節立てにした。例えば、消えた木材利用というのは復興期から発展期にわたる内容なのだが、少しまとめた方が解説は書きやすい。
- ・掲載資料の方は分厚くなってしまったが、この中から一部抜粋することになる。括弧書きで書いてあるのが掲載資料で、うち○印は確実に載せようと思うもの、△印はこれから検討するもの、下線を引いたものは今回サンプルとして提出した資料。
- ・一般読者ということを想定して、原典というよりはその解説、まとめたもの、証言、新聞記事などを散りばめるようにした。家具や紙パルプは他の分野と重なることが想定されるが、木材利用のことに限っているので、大きく重複することはないと思っている。

【坂下部会長】

- ・節立ては年代順に考えるというのが基本だが、問題別に考える場合も当然あると思う。今回は資料を並べることが基本で、そこは通史とは違うので、各々の判断でよい。

【坂下部会長】

- ・他にご質問があればどうぞ。
水産業について宮澤委員お願いします。

<(資料 1-5) / 水産業>

【宮澤委員】

- ・水産業は分担案で 4-1 と 4-2 と二つに分かれており、節立ても二つ立てればよいかと思っていたが、皆さんが細かく節を立てているようなので、それはまた考え直そうと思う。節を二つに分けて考えることを前提とした話になるが、前段は戦後の制度改革と高度成長に至る時期、後段は 200 海里体制の成立とその影響、そして国内漁業の再編成と

ということになると思う。

- ・前段では、道長官の引継ぎ文書に北海道独自の制度改正案が出てくる。漁業法の成立にかなり影響を与えたと言われ、北海道特有とあってよいかもしれないが、漁場管理・漁業管理の独自性の出発点、あるいは基盤になったと理解している。
- ・制度改革期と高度成長期は、時代に合わせた様々な取り組みがあった。例えば、営漁改善指導というものが登場し、さらに生活改善指導や沿岸漁業の構造改善などが出てくる。沖合遠洋漁業では、何ととっても北洋漁業の再開。北洋漁業が展開していく中で、水産加工の冷凍すり身技術が確立して、スケトウダラの生産が400万トンを超える時代に突き進んでいく流れを整理したい。取り上げる文献も大体見えてきている。
- ・後段では、200海里体制が敷かれ、領海法あるいは200海里の漁業水域の設定に関する要望や、韓国・中国との関係で完全な200海里設定ができない中での韓国漁船の操業による沿岸漁業の衰退、あるいは資源の掠奪といった問題など。
- ・また200海里の影響で沖合遠洋漁業が衰退していく中で、漁船漁業の構造改革が道庁の大きな仕事になっていく。沿岸漁業を中心にしなければならず、資源管理型漁業や養殖業・栽培漁業の取り組みがあり、関連する文書が多数出てきている。200海里体制の影響で漁船から降りなければならない乗組員の中に沿岸への回帰の動きがあり、鮭定置網漁業を中心とした協業化という取り組みも行われたので、それも取り上げたい。
- ・漁業全体が縮小過程にある中、漁協の合併や組織改革なども道庁主導して進められるが、その経過なども取り上げたい。

【坂下部会長】

- ・質問などがあればどうぞ。それでは、工業と情報通信について板垣委員をお願いします。

<資料1-6-1/工業、資料1-6-2/情報通信>

【板垣委員】

- ・私の担当は非常に幅が広く、産業ごとに説明していくと、多分二つめくらいで資料点数15点に達してしまいそうなので、どうすべきか悩んだが、産業の大きな流れを語る中で、その当時の産業の状況を企業の資料を使って説明するといった構成にしようと考えている。「工業1」と「工業2」の区分については、最初は重工業と軽工業という単純な分け方にしようと思ったが、企業向けのB to Bの工業を「工業1」に、一般の消費者向けのD to Cのものを「工業2」に入れるという形で考えている。
- ・「工業1」の方は、GHQによる企業の分割、復興期の混乱、高度成長期の大型投資、資本自由化と合併、石油危機後・安定成長期、それからバブル・バブル期以降という区分で大きな時代の流れをやり、代表的な企業の資料を提示していく。さらに、企業の社会的責任と公害問題のような形で、第7節を別に立てる。
- ・前回の部会で中小企業の話を入れるように承ったが、一つ二つの資料で、中小企業の全体の流れを問うのはほぼ不可能に近く、文書資料で中小企業の戦後を全部表したものはなかなか見つからないので、「工業1」「工業2」ごとに、代表的かどうかはわからないが、資料のある中小企業の組合などから見ていこうと考えて、別の節を立てるといった形をとった。
- ・使っている資料は、企業から提供いただいた一次資料や社内報、社史などが中心。第8節の下にある日本甜菜製糖については、9月上旬に資料を見せてもらえることになっている。
- ・「工業2」の消費者向けは、ほとんど食品関係。雪印・よつ葉については資料収集済みだがビール関係の調査はまだなので、今後資料があれば使っていくが、なければ社史になる。こちらの方の大きな流れとしては、GHQによる企業分割と、高度成長期の大衆

消費の時代、70年代からバブル以降までは消費多様化時代ということで一括りにした。企業の社会的責任ということでは、食の安全性といったことについて取り上げようと、1950年代から2000年代までの大きな食品問題を入れた。第5節の中小企業では旭川家具を入れているが、今後長靴などゴム製品のミツウマや、個人的にお菓子を入れたいと思っており、その辺りの資料が入手できれば入れていきたい。

- ・情報通信の方は分野ごとに見ている。第1節が通信インフラということで、電話・ファックス・携帯電話といった形で取り上げようと思う。インターネットをどうするか悩んではいるが、90年代はまだそれほど個人向けのインターネットの時代ではないので、企業向けのデータ専用ビルあたりで説明しようと思っている。

第2節がラジオ・テレビ、第3節が新聞、第4節がIT産業ということで、札幌バレーの話を中心にしていく。札幌テクノパークと少し重なりそうではあるけれども、重なった場合はどちらかで取り上げることになる。全体的に資料が多いいため、重なっている部分に関して同じような内容のものを削るなどして対応しようと思っている。

【坂下部会長】

- ・この「工業1」「工業2」というタイトル付けをどうすべきでしょうかね。第5章は工業と情報通信ということになっていて、工業はボリューム的に二つ分、情報通信一つ分ということで工業を1と2にしていたが、この辺は自由に分けていただいてよいと思う。分担案の5-1、5-2、5-3をそれぞれの一節、二節、三節ということでタイトルを付、その中で資料の並べ方に合わせてタイトルを付けていくということでもよいのではないか。
- ・通史とは違うので、後で解説しやすいようにしてもらって結構で、全部きれいにシンメトリックにということは考えなくてよいのではないかな。日甜は100年史を出したばかりなので資料がありそうだ。大きい企業の場合は、それぞれの社史から載せることになるのか。

【板垣委員】

- ・社内報も多い。苫小牧の王子製紙などは、苫小牧市立図書館に一次資料を大量に移管していて、それを使っている。例えば、「工業1」第1節2の王子製紙は、分割する時の会社名を社内で懸賞募集している1次資料であり、一般の人が見ても面白いと思う。また第2節4の「引揚者への対応」で載せているのは苫小牧製紙の重役の往復文書で、引揚者たちをどこに配置するか検討している。この辺りの1次資料を使えるかなと思っている。

【坂下部会長】

- ・深川あたりでパルプ業者が農業に被害を与えて、訴訟で農業側が勝つという公害闘争史があった。

【板垣委員】

- ・はい。1975年に苫小牧前浜の大气汚染で補償問題が発生したときの資料があったので、それを使ってもよいかとは思っている。

【坂下部会長】

- ・次に商業について満菌委員をお願いします。

<資料1-7/商業>

【満菌委員】

- ・資料を選ぶところまで至ってないため、申し訳ないがサンプル資料は出していません。節立てということでは、四つの節を立てることにした。第一節が戦後復興の辺りで、闇市が出てきて、流通統制が解除され復興して闇市がなくなるといったイメージで、

50年代前半ぐらいまでを考えている。

- ・第二節の始まりは1956年で切っている。あまり細かく切るつもりはないが、第二次百貨店法ができたことと高度成長といったところでは、これぐらいかと思っている。
- ・大きな流通政策のビジョンや、それに関わる物流や卸の動向、商品流通という大枠から入って、そのあと大規模小売業や量販店が発展していくというのが商業の発展の方向なので、そうした川上から川下へとといった取り上げ方をし、それは以下の節も同様。さらには、地域の側からその商業を捉え直し、商店街を中心として大型店の話を地域の側で引き取って言い直し考える、というイメージで各節を組んでいる。
- ・第二節と第三節をどこで切るか少し迷っている。70年頃から流通近代化ということが全国的に言われ出すが、北海道でも北海道流通近代化が言われ、様々なビジョンを出したりするので、その辺りで切っている。
- ・第三節は、大規模小売店舗法ができ、その下で大型店とそれ以外の小売業態が多様化してくることが一つのトピックになる。(4)の「大型店の出店調整と地域商業」では、今回かなり一生懸命集めて、商工会議所の出店調整に関わる一次資料がたくさん手に入っており、それらを多めに紹介したい。
- ・第四節はおおよそ90年頃からのというイメージで、商業全体の競争構造が少し変わってくる。端的に言うと、郊外のロードサイドと中心市街地といったことや、情報化の進展みたいなことで、川上・川下のいろいろなところで変わってきている。その変化と、最近に至るまでのまちづくりの取り組みが一体となって、一つの時代として捉えられるような節を立ててみた。
- ・各節の下にある「・」が資料のイメージとトピックということになるので、ここから絞ろうと思っている。イメージとしては、いくつかの商工会議所の資料や企業の資料も収集できたので、それを使えるところはまず使い、それ以外のところでは刊行物になっている調査資料や流通政策に関わる資料などを使う。それでも埋まらないところは新聞記事で埋めるといったイメージ。資料の性格もそれではらつきが出てよいのかと思うが、具体的などころまではまだ絞り込めていない。

【坂下部会長】

- ・かなりまとまってきていると思う。節の下に(1)(2)(3)とあって、確かにこれはこれでいいのかとを感じるが、事務局としてはどうか。この辺の自由度は相当あってよいと考えてよろしいか。

【事務局】

- ・このように並んでいる方がわかりやすいと思うので、そこは自由にしてよいのではないかな。

【坂下部会長】

- ・これは資料の紹介の仕方なので、あまりガチガチに固めない方がよいと思う。資料のかたまりがわかった方がよいので、節の下の括弧は付けてもよいことにしましょう。節立てを多くしたり、関係のある資料を問題別にまとめたり、その辺の裁量はそれぞれにお任せすることにしたい。よい資料を集めるところが中心なので、とりあえずはそれでよろしいかと思うが、目次を作ってみるとかなりでこぼこになるはずなので、それは最終的に検討しなければならない。親委員会の方へ説明する際にも、もう少し綺麗に揃えるという議論が出てくるかもしれない。
- ・資料の方も50点以上出していただいている。最終的に使うか使わないのかに関わらず、事務局で候補資料の打ち込みをするルールになっているので、皆さんもそういうことで進めていただきたい。
次に交通について市川委員からお願いします。

<資料1-8/交通>

【市川委員】

- ・交通の方では、資料のボリュームや時期区分から、一応4つの節に分けた。第1節「復興と輸送」は洞爺丸事故ぐらいまで。第2節「輸送増大と迫られる近代化」は、高度成長期に向かって旅客も貨物もどんどん需要量が拡大するのに対して、どうしていくかという時代。第3節が一番大きな転換点だと思うが、モータリゼーションによって鉄道から自動車、そして飛行機も新たに出てきて交通が再編され、過密化する都市と過疎化する地方、どちらにも赤字の問題が出てくる。第4節「進む高速化と赤字路線問題」では、完全に自動車・飛行機が基幹となる中で、赤字ローカル線の問題も扱う。
- ・掲載資料の目安は30点ということで、交通基盤と交通で15点ずつ分けることを想定していたがなかなかうまくいかず、合わせて30点という形で選んだ。他の分野もそうだと思うが、総花的にやろうとすると北海道は他の自治体と比べてあまりに広く非常に難しい。並べてストーリーがつけられるようにするのか、あるいはここでしか使えないものをなるべく扱うのかを考えた結果、30点選ぶという制約の中では、後者がある程度優先せざるを得ないと思う。資料としてはいびつな面もあるかもしれないが、それは通史編でストーリーをつなげていけばよいのかと思う。
- ・やはり行政側の、例えば最初に挙げた終戦の時の資料や、簡易軌道が開拓者輸送に果たした役割など、面白い資料を挙げていくという形にしている。
- ・運輸というと、どうしてもある時期までは国鉄が中心になってしまうが、国鉄の鉄道史はあちこちで扱われているので、むしろ従来あまり扱われてこなかった私鉄や簡易軌道、飛行機・トラック・バスなどの交通機関も含めて、役割がどう変わっていくか、鉄道から自動車にどう変わっていくかといった流れがわかるような資料を中心に並べていきたい。
- ・例えば交通の営業報告書では、文章とかなり多くの表、という形になっている。資料編に掲載する資料は、文章で載せるということが基本なのか。

【坂下部会長】

- ・まあそうですね。それで済まない場合もあると思うが。

【市川委員】

- ・そうですね。基本的に文章で載せるということであれば、逆にある程度絞られる。例えば営業報告書でも文章の部分を抜粋して、それを適宜取り上げていくという形が望ましいのですね。営業概況みたいなものを各年から抜粋して並べる、加工して載せるという方法も考えられるかと思う。

【坂下部会長】

- ・これまでの運輸関係は国鉄中心で来たと思われるが、殖民軌道みたいなものは大変興味深くおもしろいと思う。
- ・資料の並べ方ですが、節の直下に資料名を並べるのか、資料を区分した項目を付けて資料を並べるのか。そのまま資料名を並べるのも一つの考え方だと思うが、解説との関連もあるので、全て集まった段階で考えたい。

【市川委員】

- ・ある程度は項目を付けて資料名を並べるのも可能。方針に従いたい。

【坂下部会長】

- ・解説の書き方も共通で行った方がよいが、いずれにしても全員から出て来ないことには方針が立てられない。タイトルは、交通基盤を抜いて交通でよろしいか。

【市川委員】

- ・交通と交通基盤を分けて資料編をつくるのは難しいので、合わせて30点の交通とするのがよい。

【坂下部長】

- ・農業、林業、水産業、工業、商業、交通という章の名前は、わかりやすいといえばわかりやすいけれどもシンプル過ぎるので、北海道的ものを表現するように、最後に章の名前も替えたほうがいいのかも。これはペンディングにしておく。
次に石炭・エネルギーで、石炭の方から青木委員をお願いします。

<資料1-9/石炭・エネルギー（炭鉱・その他鉱山）>

【青木委員】

- ・私は資料調査が出遅れ、昨年8月から今年7月まで探すことになったが、春からコロナで公的な資料所蔵機関がなかなか受け入れてくれないこともあり、苦戦したところがあったが、トータルで300点弱ぐらいを拾い出した。中身の濃いものから薄いものまで雑多だったという感触。ただ、石炭や鉱山に関してはもうすでに産業として残っていないということもあり、これはという資料にはめぐり会えなかった。
- ・今回の対象である、1945年から太平洋炭鉱閉山後の釧路コールマイン設立の2002年までの間の、エポックというか内容を拾い出してみた。石炭の節立ては3節とし、第1節は戦後復興と石炭政策というところで、1945年から1955年の、それに見合う資料を拾い出した。この時期の資料は比較的多くあり不自由しないが、何か面白いものはないかなということで、石炭の増産奨励のためNHKがラジオ番組で炭鉱向けの番組を流したものが資料として残っていたので、音源を起こしたものを使おうと思う。
〈炭鉱の風景〉のところでは、炭鉱といってもなかなかイメージがわからないので、点景というか風景ということで、大きく外から見たような内容のものを資料として採ってみたい。第1節のエポックとしては、炭婦協、労働組合の中の女性部会のようなものを取り上げる。
- ・第2節は災害と技術について。炭鉱の場合、生産に直結する部分でいろいろな技術が国内・道内の炭坑で開発されてきたが、その中の例えば水力採炭などを紹介したい。あとは教育の方で、技術教育と重なってしまうかもしれないが、以前公立の工業高校に設けられた採鉱科を紹介するほか、住友や三井、北炭などがそれぞれ私立の高等工業学校を設立しているので、そうした炭鉱立の学校も取り上げたい。
- ・炭鉱では戦後から災害が繰り返し起きているが、その中で太平洋炭鉱の災害関係を拾って入れてみようと思う。もう一つ職業病の関係では、まだ今も係争中になっているところがある「じん肺」の問題。それほど深い内容ではないが、こういう問題もあったということで加えてみたい。
- ・第3節は炭鉱の閉山・衰亡と産炭地域の変遷。最終的な閉山は太平洋炭鉱の閉山だが、エポックになるのは災害のあった北炭夕張新鉱の再建問題。道外でも大きく取り扱われ、資料も比較的多くあるので載せてみたい。石炭政策に関しては、「石炭政策オーラルヒストリー」という面白い聞き取り資料から紹介したい。
- ・炭鉱の閉山に伴って、衰退する産炭地の振興策というものが、いわゆる産炭地振興法が切れるまで続けられたわけだが、産炭地振興の中で出た資料も載せてみたい。
- ・鉱山の方は2節で組んでみたが、資料の点数は多くない。鉱山は炭鉱よりさらに資料が残っておらず、技術的な資料はあるけれども企業の資料はなかなかない。そこでとりあえず、第1節は戦後の北海道炭業、第2節は北海道鉱山の実相とした。鉱山というのは炭鉱より早く消えてしまったので、鉱山とはどんなものかという資料を紹介す

ることにしたい。

- ・資料はトータルで 31 点。炭鉱 24 点、鉱山 7 点という内訳でおおよそ組んでみたい。

【坂下部会長】

- ・かなりいろいろな資料を駆使されている。第 8 章全体の節構成がどうなるかは、小坂委員の部分もあり、章の下に中くらいの章があつて、その下に節があるという感じになるのか、後で検討してみましょう。続いて同じ章のエネルギーを小坂委員からお願いします。

<資料 1-10 / 石炭・エネルギー（エネルギー）>

【小坂委員】

- ・エネルギーの第 3 項目を担当するというので、今日お出しした資料は急遽作ったもの。中身が挙げられておらず、また、項目としても随分落としてしまった部分がある。
- ・石炭については、北海道のエネルギー問題ということで言えば当然外せないの、それを中心にして構成していくということで話が進んできた。それはそれで納得しているが、ただエネルギーというタイトルで北海道のことを語る時に、石炭を抜くと話がまとまらないというか、つくれないことがあり、そこはもう少し詰めたと思う。
- ・石炭を抜いたエネルギーということで、いわゆる二次エネルギー、電気や都市ガスという転換したエネルギー問題を軸に組み立てている。節立ては基本的に歴史的な流れを追いかける形で、北電を中心とした電気事業の展開を基軸にして、そこに国のエネルギー政策がどのように絡んでくるのか、或いは逆にエネルギー政策が北電にどのような影響を与えたのかという観点で構成した。
- ・せつかく北海道の通史ということなので、北海道の特殊性みたいなものが顕れるような内容にしたい。例えば、電気事業は北海道電力という公益企業が各地域で担当してきたが、北海道には道営電気という公営電力もあり、全国でも有数の開発の歴史を持ちながら現在でも機能しているので、その道営発電所の問題も特徴として入れた。
- ・4 の農山漁村電化は全国的な問題だが、北海道では開発のこともあってより深刻なテーマになっている。6 に北電内陸火力問題を挙げているが、現在全国でもほぼ唯一の石炭火力となっている砂川と奈井江は、北海道で産出する石炭を燃料として発電をする非常に珍しい火力発電所なので、特徴として出せると思う。
- ・第 2 節では、石油危機から今日の電力自由化までの流れを追う。石油危機以降 70~80 年代の電気事業やエネルギー問題は、基本的に国内炭から海外炭の方向へ進む流れと、原子力及び再生可能エネルギーという形で進んでいく。北海道では海外炭への転換は遅れるが、原子力と再エネの流れは 80 年代以降も厳としてあり、これが今日の洋上風力などの問題につながっていく。
- ・第 3 節の電力自由化と北海道エネルギーでは、北海道の電気を中心としたエネルギーの流れが、2000 年代の初めぐらいまでにはほぼ今日の姿を展望できるところまで進んできていることを示す。
- ・電気事業を中心に上げる方針ではあるが、北海道ガスを中心とした都市ガス事業も上げるべきかと思っている。現在は北ガスも輸入天然ガスを考えているが、これまで勇払の国産天然ガスを使ってきており、国産の天然ガスは日本では非常に珍しく新潟などと並び数少ない事例である。熱供給事業は、札幌市を中心にコージェネの供給システムが発達しているので、こちらも北海道的な特徴として資料として出すべきかと思っている。これらは、先ほど挙げた 15 点には含まれておらず、今後修正したい。

【坂下部会長】

- ・石炭・鉱山とは別に章を設けるか、同じ章にするのか。電気事業のようなものが石炭

と同じ章に入るのには違和感を覚える。

【小坂委員】

- ・私は本来、通史があつて、それに見合う資料は何かという考え方になると思っているので、通史編より資料編が先に来ること自体が理解できなかった。
- ・そこでまず節立てをして、そこに資料を合わせるという手法を試みたが、必ずしも通史編でこの節立てをそのまま使うという意味ではなく、あくまで構想の中で通史の資料として使うならこのような資料かな、という考え方で作成したもの。

【坂下部会長】

- ・その問題は以前にも議論した。通史が先にあり、後でその資料を集めるという手法に慣れているようだが、歴史の場合は宝物を探り当てるように貴重な資料を見つけるといった側面があり、今回のように時間をかけて資料調査を行う場合には、まず資料を集めてそれを解説し、うまく本編とつないでいくという手法になる。通史と直結する形で資料を並べる考え方と、面白い資料が出てきたらそれを紹介するといった2つの考え方がある。これまで使われていない資料を見つけようという大きな目標もあるので、それぞれの担当の知恵の範囲内で整理を進めていただく。
次に金融、観光、サービス産業について佐藤委員をお願いします。

<資料1-11-1/金融、資料1-11-2/観光>

【佐藤委員】

- ・金融には3つの大きなカテゴリーがあり、本来なら章立てにするのがよいのだが、資料から考えてうまく調整できなかったなので、今回は2つの節に分けてみた。
- ・第1節では、拓銀や公的金融、その他の銀行として北海道銀行や北洋銀行を含めて、現在に至る金融体制がどのように成立したのかを整理したい。高度成長期は軽く触れ、拓銀破綻に絡んだ資料などを紹介できればと思っている。
- ・銀行制度の体制整備としては、1949年にGHQが日本の金融体制はこうあるべきだといった指針を出し、それを受けて大蔵省が金融業法を検討しているので、それを資料として取り上げようと思っている。その考え方に基づいて、昭和25年の法律により、2の「拓銀の普通銀行への転換」が起こる。
- ・GHQや大蔵省には、長期金融は証券を通じて行うべきという考えがあつたが、実現できずに高度成長期に入ってしまい、その後公的金融の考え方が二転三転した。国立公文書館に道の考え方がわかるヒアリング資料もあるが、いろいろな動きを最も網羅的に説明するものとして、北海道東北開発公庫の設立経緯の資料を3番目で取り上げた。
- ・4と5はバブル経済前後の資料。拓銀の株主総会の資料などを見てみたがどうもはっきりせず、拓銀の情報誌に載っていた記事が一番的確だったので資料として出そうと思っている。
- ・第2節の1と2は拓銀の情報誌の記事で、破綻につながるインキュベーター戦略を担当した総合開発第一部と第二部の動向を紹介している。また1995年のムーディーズの格付けで拓銀が一番低い格付けにされたことが破綻につながったと言われているので、これも載せる予定。この他にも拓銀の破綻については新聞や雑誌記事など資料がたくさんあるが、一番まとまっている1999年1月に出された帝国データバンクの資料を載せようと思う。
- ・当時北海道のGDPは20兆円ほどだったが、拓銀破綻による影響はその5%程度で収まったことや、信用保証協会が結構大きなウエイトを占めていたことをどのように紹介するか迷っている。拓銀の破綻を受けて300兆円ぐらいの劣後債を道内の信用金

庫が引き受けたことについては、唯一名寄信金の周年誌に、経営を揺るがしつつあったものの何とか回収することができた旨の記述があり、また、指定金融機関が拓銀から全て信金などに変わったことが各信金の周年誌や道の資料でも確認できたので、それらについても掲載する。

- ・道内の経済がおかしくなった要因には、拓銀の破綻よりも建設業の公共工事の縮小によるところが大きく影響しているが、それは建設関係を担当される方にお任せしたい。
- ・次に観光については、他の産業との関わりが非常に大きく、他の産業とのバッティングが比較的少ないのは政策ではないかと思ったので、観光そのものより観光政策という節立ての方が収まりがよいと考え、括弧書きで観光（政策）とした。
- ・第1節の観光政策の初期については、GHQの考え方が観光連盟の周年誌に載っている。道の施策としての観光振興は、観光審議会の資料があるが、入れ込み客数の資料が入手できないので何とか手に入れたい。
- ・第2節以降では、バブルやリゾートの関係では観光審議会や道の資料があるほか、占冠村が作成した『占冠村のリゾート』という資料には、税収や人口の推移なども書かれていて最もわかりやすい。占冠村の広報誌なども絡めて組み立てていこうと思っている。
- ・リゾート開発や失敗例などは新聞に書かれており、また、道のリゾート関係の調査報告書など行政刊行物がたくさんあるので、それらをどのように組み入れていくか検討しているところ。

【坂下部会長】

- ・それぞれ非常に大事なテーマだが、金融は2節立てよりもう少し増やせないか。

【佐藤委員】

- ・増やすとすれば、バブルの頃を前期、破綻までを後期に分けて3節にするといったところか。バブルが起きた要因を詳細に取り上げると、奥田委員など他の産業と重なる可能性があり、今回は扱わないこととした。

【坂下部会長】

- ・金融を文章資料で、というのはなかなか難しいところがあるかと思う。通史の中の北海道的な特徴と言えば拓銀が大きい。信金の劣後債のウエイトが高かったことなどいろいろあるかと思うが、その全体像がよく見える資料があればよいという気がする。

【佐藤委員】

- ・金融の最後にある「指定金融機関の変更」は根室信金の資料のほか、各信金の周年史にも載っている。統合されていった経過がわかるような図表もあった。

【坂下部会長】

- ・私の方でも金融機関として農協があり、それは農業の方で扱うことにしようと思うが、マリンバンクも漁業の方で扱うことを確認しておきたい。

【佐藤委員】

- ・現在の懸案は郵便局の資料調査で、何らかの形で郵便局についても触れてみたい。

【坂下部会長】

- ・観光の資料は分量的にたくさんあるか。

【佐藤委員】

- ・たくさんあるので大丈夫。

【坂下部会長】

- ・次に9章の3のサービス産業を韓委員にお願いします。

<資料1-12/サービス産業>

【韓委員】

- ・これまで部会で報告したことがなかったので、構想からわかるような形で要点を書いたレジュメを出させていただいた。今回は一応 50 点ほど出したが、これらを全部載せるということではない。
- ・資料の収集状況が芳しくなく、さらにサービス産業はかなり業種が多様なので絞らざるを得ないが、絞ってもなかなか資料が見つからない状況にある。今回は宿泊関係を中心にまとめており、それに基づいた節立てになっていることをご了承願いたい。
- ・北海道ならではのサービス産業と言うと、ボリューム的にも従業員の雇用の問題から見ても宿泊関係が比較的大きい。宿泊、医療、福祉、洗濯・美容関係はボリューム的にも重要な産業であるが、生活インフラに関わる産業の一次資料はあまりない。
- ・飲食店関係は主に中小企業や自営業であり、従業員数の規模からみても必ずしもサービス産業に入らないが、今は大分類の 3 類に位置づけられているので取り上げたい。しかし適当な資料が見当たらず手つかずのままになっている。
- ・宿泊関係を調べてみたところ、1960 年代に観光政策関連の調査が行われて様子はわかるが、それ以外は薄めの資料しかなく、北海道新聞の記事を中心とした。これらを業種的にサービス産業として括ってよいのかという問題と、時代的にかなり偏った内容になっているので、その対応について判断できていない状況にある。
- ・第 1 節は時代的な特徴になるが、戦後復興期に娯楽業が注目され各都道府県で公営ギャンブルが導入されたことに着目した。公営ギャンブルの状況と映画、パチンコは時代的な特徴を持っているので、復興期のサービス産業ではこの辺を触れてみようと思う。
- ・第 2 節の節立ては時代を重複しながら並べていて、ここから宿泊・観光関係の話になる。道新の記事を集めて面白いと思ったのは、道路など交通関係のインフラ整備が進むと北海道が観光地として注目され始め、人が移動して大勢押し寄せて来る時代を迎えるが、来ても箱がないということがこの時期から問題になってくる。また、追いかける形で旅館が増えていくが、箱をつくっただけでそれに伴ったサービスがあまり定着せず、北海道のサービスは非常に悪いといった状況が生まれた。
- ・各地域で観光の概念がまだ定着しておらず、北海道は景色がいいから行ってみようというので観光客は来るが、今ほど観光道路は注目されていないので移動が難しく交通の便も悪い。旅館のサービスで確実に良い評価が得られるようになるのは 1980 年代末になってからで、人はブームに乗って来るが、サービスが伴っていないという点は繰り返し指摘される。
- ・観光業の特徴として、宿泊客は特定のシーズンに集中する特徴があるが、北海道の場合はかなり極端で、5 月から 9 月あたりに観光客が集中するので旅館やホテルはそれに対応する形を取らざるを得ず、平均稼働率は 3 割程度で、経営的には効率が悪い。従業員を季節雇用にするが、サービスに関する教育が蓄積されていかないと、稼働率の悪さから投資もあまりできないといった悪循環が 1950 年代末頃から 70 年代まで繰り返され、これがどのように解消されていくのかという視点で節立てをしている。
- ・第 2 節は、東京オリンピックの前後から札幌オリンピックまでの時期に洋式の国際ホテルへの投資が行われ、大型デラックスホテルはたくさん建つがサービスが伴わない状況だったが、それが次第に定着していくところに注目した記事をピックアップした。
- ・第 3 節では、北海道観光の季節的な偏りを冬の遊びにより解消することを模索し、1 年を通しての稼働率は若干上がるのだが、これも期待するほどの効果がなかったことに関する資料を提示している。
- ・一般的に北海道観光は重要だと認識はされるが、行政には観光より優先すべき課題が

たくさんあるので政策的なサポートを行えず、さらには旅館を建てるにもなかなか融資が受けられず、産業金融的な部分も追いつかない。しかし有力な企業・経営者が動いてホテルがデラックス化していく面はあり、例えば石炭事業の斜陽化で生き残りを模索した北炭は、観光業やホテル業に注目し、有数のホテルを建設するということがあった。また、人がたくさん来ることによってオーバーツーリズムの指摘がなされるが、観光客から文句を言われるケースや、予約キャンセルの増加、遊び場が増えたことに伴う事故の発生や安全対策といった諸問題を抱えるものの、観光産業に対する政策的な支援は他の産業に比べて遅れる。これらのギャップをどのような形で埋めていくのが観光地域としての北海道の課題であったと考えられ、その流れがわかるような資料をピックアップしてみた。

- ・最後になるが、面白いと思った資料は1960年代に固まっている状況にあり、また旅館関係の実態調査は、有名な温泉地域よりも観光後進地域の要望に対応して実態調査が行われるため、護送船団方式のような部分に要点があるといった、資料の性格の問題もある。
- ・道新記事を並べる結果となってしまったが、このような資料編でもよいのかということも含めてご意見をいただきたい。

【坂下部会長】

- ・初めてということで全体の話までしていただいたが、なかなか記録に残らない産業分野に苦労されているようだ。ストーリーとしては非常に面白く、むしろ通史の方の話という感じもするのだが、これを上手に資料に語らせる方向に持っていければと思う。いろいろな資料の出し方があるので、新聞記事ばかりにはならないと思う。
- ・特徴的なものを出すのは結構だと思うが、後段の部分でももう少し資料を探していただきたい。

<（資料1-13）／労働>

【坂下部会長】

- ・次の10章は労働になるが、本日欠席の宮田委員からあまりまとまった話を聞いていないので、私と事務局の方で状況を把握しながらその後の対応を考えることにさせていただきます。

<資料1-14／アイヌ関係>

【坂下部会長】

- ・小川委員から資料1-14にアイヌ史に関わる資料が農業と観光の分野に何点か出されている。農業は農地改革の問題で目次にも入れており、1点は入れることにしたいが、観光の方についても配慮する方向で考えていただきたい。

(2) 「建設業」の担当について

【坂下部会長】

- ・建設業については、今まで目次立てには入れていなかったが、章には至らないまでも、公共投資などを含めて北海道ではウエイトが大きい分野なので取り上げたい。
- ・今のスケジュールでは、来年の5月ぐらいまでには目次や資料が確定することになっており、原稿が印刷屋に回るまで少し時間的に余裕があるので、皆さんの担当分が概ね完了した段階で、中堅どころの方になろうかと思うが、私も含めた何人かで半年程度で行うこととしたい。
- ・何もない状態をお願いする話にはならないので、事務局の方で少し資料を集めてもら

った。資料2になるが、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・坂下部長から指示で、建設業関係の資料がどれくらいあるのか、図書館で1日、文書館で1日、開発局の図書室で半日ほどをかけて調べ、基本的・基礎的な資料の複製は済ませている。ざっと見ただけでもたくさんあった。
- ・資料2は収集した資料を整理した一覧。「1 概説・概況」の中でも特に8の『北海道における建設業の概況』は1965～2003年まで全て揃っている、流れの概ねは掴める。
- ・「2 業界史・協会史・企業史」も多数刊行されており、この他地域ごとの建設業協会でも年史をつくられているので、主な企業史と各地の協会史と合わせることで地域の特徴なども追えると思う。
- ・「3 土木行政・実態調査」は、行政による業態調査は道や建設業協会の資料で、かなり豊富に残っている。
- ・「4 各課題」については、建設業を取り上げる際にどのようなことが柱になるかを考え、北海道の特徴的な課題として、通年施工の問題、合理化・協業化の問題、除雪など冬道や道路管理の問題などの別に整理したもの。刊行物ばかりでなく公文書でも、例えば合理化・協業化については52番目の受注機会確保の陳情や、56番目の冬季間の労働力を活用したいという要望書、58番目の公共事業の発注のため補正予算をたくさんつけてほしいという道への要請などが見つかった。
- ・「5 業界雑誌・新聞」は分量が多いので一部分のみしか複製収集していない。雑誌の『建設北海道』『建設ニュース』は昭和50年代に出されたもので、業界の実態を語った座談会などがあつた。『北海道建設新聞』は収集の中心になると思うが、同社に問い合わせたところ、昭和30年代以降は揃っていて調査も可能とのこと。同新聞は1947年から創刊されているが、初期のものはプランゲ文庫の中に入っている。

【坂下部長】

- ・ざっと調べただけでも資料は豊富なようだ。今後相談させていただくが、非常に重要な分野になるので是非手を挙げていただきたい。個々の成果が出た段階でチーム編成をしたい。

【佐藤委員】

- ・資料2の一部の資料の作成年にかなり最近のものがあるが、収集する資料の作成年次は2003年で切らなくてよいのか。

【事務局】

- ・資料2の最近の資料は、概説書や企業の年史などである。

【佐藤委員】

- ・拓銀破綻関連で雑誌などに最近になって出てきた資料があり、これを使いたいと思っていたので、確認したところ。

【坂下部長】

- ・昔のものが最近記事になったのであればそれは全く問題ない。それでは、議事3の今後の予定に移りたい。

(3) 今後の予定について

【坂下部長】

- ・節立てと想定される資料が完全に出揃うところまで行き着いていないようだが、資料3の部会のスケジュールのとおり、年末までに掲載資料の目途をつけていただきたい。
- ・それまではもう少し資料を探しながら、掲載候補を順次事務局に送り込みワープロで

筆耕してもらうことになる。少し多めに送っていただくイメージで、これを年末までに進めてもらいたい。

- ・ 今後は、12月の然るべき時期に検討会を行い、来年の3月に資料を絞り込み、5月に確定させ、9月には解説文まで終わらせるといったスケジュールで進める。
- ・ 全部揃ったわけではないが、ある程度の見通しは立ったという理解している。何人か未提出の委員もいるが、そこはフォローするなどして進めていただければと思う。

(4) その他

【事務局】

- ・ 道新記事の索引については、1945年から検索可能になる1988年の前までを半分に割り、第Ⅰ期分として昨年の春にCDでお渡ししたところだが、第Ⅱ期として1967年から1988年までを9月上旬に提供する。基礎資料として活用いただきたい。
- ・ 前は4万件程度を拾ったが、今回は約5万5千件となった。記事の全てに分類を付けているので、前回と同様に希望する記事番号をお知らせいただきたい。

【坂下部会長】

- ・ 当委員会の親委員会が年内に開催される予定だが、産業・経済編が最初に出版されることになるので、その内容について報告を求められる可能性がある。その際は目次のレベルになるが、最も進捗している委員のものをモデルとして出したいと考えており、節立てが流動的な方は、このことを念頭に置いて早目に検討していただきたい。
- ・ 次回も部会の開催前に作業をお願いすることになるが、先ほど説明した段取りで進めさせていただく。

5 閉 会

(了)